

# 令和7年度 兵庫県立伊川谷高等学校 学校評価

学校経営方針	夢の実現に向けて努力する生徒の育成 地域に愛され、地域に貢献する伊川谷高校
スクールミッション	「自主・協同」の理念のもと、目標を設定し、その実現に向け、自分をよりよく養えようとする意欲と、他者と関わり、自分の役割を自覚し、その役割を果たそうとする責任感を醸成し、夢の実現に向けて努力することのできる人材を育成する。
重点項目	① 学ぶ意欲を引き出し、確かな学力を身につけさせる授業づくり ② 夢と主体性を育む体験活動の充実 ③ 一人一人が輝く教育の推進 ④ 積極的な情報発信と開かれた学校づくり ⑤ ふるさと貢献活動やボランティア活動の推進 ⑥ 質の高い教育活動を支える効率的な業務の推進 ⑦ 夢を見つけ、育て、実現に導く進路指導・キャリア教育の充実 ⑧ 教員一人ひとりの意欲・熱意の醸成をよりよくしようとする主体性を育てる生徒指導 ⑨ 部活動の充実 ⑩ 発展的統合に向けた適切な円滑な準備

5 よくできている 4 まあまあよくできている 3 普通 2 できていない 1 わからない

領域	標語	分掌	重点目標	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	R7評価	R6評価	分掌	
総務・生徒指導・保健・進路	充実した学校生活のために	総務	④⑩	伊川谷北・神戸学園都市高校における交流事業の推進	・国際交流事業の推進 ・発展的統合に伴う伊川谷北高校・神戸学園都市高校との交流事業の充実	1	・国際交流事業の神戸学園都市高校へのスムーズな引継ぎ ・伊川谷北高校・神戸学園都市高校との行事における交流事業の充実	3.4	3.4	総務	
			⑥	災害・防犯を主体とした防災教育の充実	・防災マニュアルの見直し ・職員研修会の充実	2	・災害時の役割分担の見直しとフローチャート化 ・防災の職員意識向上と生徒への啓発	3.8	3.6		
			①②⑥	図書館利用の推進	・朝の読書の充実 ・図書館利用の回数を増やす工夫	3	・朝の読書にとどまらず、総合的な探究の時間等で利用率をあげる ・図書館に立ち寄りやすい環境をつくる	3.1	3.3		
	未然防止・早期発見・早期対応	生徒指導・保健	⑧	生徒の主体性を育てる生徒指導	・あいさつ運動、登校指導 ・頭髪・服装指導、交通安全指導	4	・各学年・各部の教職員の協力を得て、毎朝、生徒昇降口付近でのあいさつ運動を利用して、頭髪指導・服装指導や交通安全指導を実施する。 ・風紀検査を学期に1～2回行い、学校生活での風紀面の理解を深める。	3.1	3.2	生徒指導	
			⑧	安心・安全な学校づくり	・SNSの使い方等についての指導	5	・授業を通して、SNSの使い方について深める。 ・SNSでのトラブルに対して、早期に対応できるように関係機関との連携を深める。	3.2	3.0		
			⑤	ふるさと貢献・ボランティア活動の推進	・清掃活動、ボランティア活動などへの参加	6	・生徒会が中心となりPTAと協力し、地域清掃活動を行うことで地域との連携をはかると共に部活動で地域活動の参加を実施する。	3.1	3.5		
			⑨	部活動の充実	・部長会議、部活動集会等	7	・生徒が主体的に取り組み、活発に活動ができる意識を持たせる。 ・長期休業前などに熱中症対策や応急手当についての説明を実施し、安全に活動ができるように努める。	2.8	3.1		
			③	一人一人が輝く教育の推進	・スクールカウンセラーの活用	8	・保健室での相談内容を担任・学年に伝え、個々の生徒の指導に活かせるようサポートする。必要に応じ、キャンパスカウンセラーとの教育相談とも連携する。	3.2	3.4		
			③	保健・安全指導	・保健だよりの配付	9	・保健だよりを配付し、感染症の予防や啓発に努めるとともに、自己の健康管理ができるように促す。	3.6	3.6		
教務・進路	夢の実現	進路指導	⑦	進路希望の実現	・進路実現にむけての情報発信 ・進路希望調査	10	・年度当初に全学年対象に進路希望調査を実施し、進路実現に向けて意識を持たせる。 ・情報誌の配布やオープンキャンパスの情報発信、進路通信の発行など、生徒の進路実現に向けて情報提供をおこなう。	3.6	3.5	進路指導	
			⑦	進路選択の支援	・外部機関の有効活用 ・インターンシップの実施	11	・外部機関との連携により、公務員、就職希望者に向けてのセミナーをおこなう。 ・インターンシップ、ワークキャンプへの参加を促し進路選択に向けての支援をおこなう。	3.7	3.3		
	新たな前進	教務	①	基礎基本、個に応じた指導	・効果的な少人数授業、TT授業の研究・提案 ・様々な授業形態の情報提供	12	・生徒の興味・関心、進路に応じた教育課程を編成し、本校生徒に履修させるべき科目を設定する。 ・生徒の力に応じた基礎学力をつけるために少人数授業、習熟度別授業、ティームティーチングを実践する。	3.5	2.9	教務	
			①	学力向上	・シラバスの作成 ・年2回の「学び合い週間」を効果的に活用し、学校全体での授業改善に努める。 ・公開授業、研究授業の実施	13	・シラバスを作成し教室に掲示し、各教科の目標や評価基準を提示する。 ・学び合い週間を効果的に活用し、略式指導案作成などの工夫をして、お互いの授業のよいところを取り入れることに努める。 ・研究授業において、研究協議を行い授業実践力を深める。 ・授業評価アンケートを実施し、授業改善につなげる。	3.0	3.1		
			⑥	情報管理体制の確立	・校務支援システムの安定的運用	14	・校務支援システムを運用し、出欠、成績管理、指導要録、調査書の作成を一括して行う環境を整える。 ・成績報告会の資料の統一。	3.2	3.4		
			①	ICTを活用した授業に向けた取り組みの実践	・ICTの活用技能を高めるための職員研修会 ・「百問線乱」活用に向けた研修会	15	・情報セキュリティ能力及びモラル向上のため日常の相談体制を充実させる。 ・考査後の成績処理をスムーズに行うために百問線乱の普及に努め、教職員の負担を軽減できるようにする。	3.8	3.4		
			④	本校の広報	・本校HPを必要に応じた更新	16	・Webページに特色、学校行事、部活動等多様な情報を発信する。	3.0	3.3		
			①	ICTを活用した授業に向けた取り組みの実践	・ICTの活用技能を高めるための職員研修会 ・「百問線乱」活用に向けた研修会	15	・情報セキュリティ能力及びモラル向上のため日常の相談体制を充実させる。 ・考査後の成績処理をスムーズに行うために百問線乱の普及に努め、教職員の負担を軽減できるようにする。	3.8	3.4		
	学年経営	夢への道をつくる	2学年(49回生)	⑧	互いに思いやり、尊重し合う	・日常生活を充実させる ・積極的な学校行事への取り組み	17	・集団の中でそれぞれがルールを守り生活することが、自分を大切に、お互いのことも大切にできることを実感させる。 ・学校行事に全員で取り組むことで、お互いを尊重しあい、向上しあう存在を目指す。	3.2	3.2	2学年(49回生)
				⑦	自身の進路目標を模索していく	・ポートフォリオの活用 ・進路学習の充実	18	・3年次の進路選択の際に、幅広い選択肢の中で主体的に道を選択できるように、進路関係の行事の充実による情報提供や進路学習での生徒自身の学び、ポートフォリオでの記録の徹底を行っていく。	3.5	3.3	
①				基礎学力と学習習慣の定着	・小テスト、週末課題の実施 ・タブレットを用いた授業の充実	19	・自宅学習も含めた学ぶ姿勢を定着させ、課題提出の徹底や、小テストでのステップなどにより、「できた」「できる」などの肯定感を育成していく。	3.2	3.1		
笑顔・夢		3学年(48回生)	⑧	自ら気づく個、集団に	・先の結果を想像して行動できる人間を目指す ・他者との円滑なコミュニケーションの実現	20	・物事の善悪のつかない失敗への対応強化と、以後の改善について共に考える。 ・生徒への指示は最低限に抑え、極力生徒自身が考え行動できる場を設定する。注意・指摘は言葉による聴覚からのみでなく視覚情報も活用することで、生徒自身が場の雰囲気を感じやすい状況を生み出す。	2.6	3.0	3学年(48回生)	
			①	豊かな生き方に向けた学びの充実	・NIEの活用を通して社会の状況を学ぶ ・はがき新聞等の活用により自らの表現力を高める	21	・読み書きをメインに、今一度朝読の実施を徹底する。 ・行事の感想やまとめ学習にはがき新聞を活用することで、文章力の向上とともに視覚情報を用いた表現力の向上を目指す。 ・年2回、はがきを書いて実際に投函することで、社会通念上の必要となる知識を体験より獲得する。 ・ネットにあふれる情報の真偽を見抜く力を付ける。	2.9	3.2		
			⑦	主体的な進路選択のできる生徒の育成	・生徒自身が目標とする進路実現に向けた様々なプログラムを実施	22	・自分の進路に妥協しない。 ・進路決定後も、己の力を限りなく伸ばすための努力を怠らない	3.0	3.2		
			⑥	教職員の資質向上	・教職員の自己研修の奨励	23	・教職員の自己研修のための環境整備を進め、情報提供する。	3.1	3.2		
働き方改革推進	夢の実現を支える体制	教頭	⑥	ICTの効果的な活用による校務の効率化の工夫	・ペーパーレス化によるデータ集計等の効率化 ・朝の打合せや職員会議時間の短縮とその活用	24	・アンケートや調査は全てペーパーレスにする。 ・Teamsを有効に活用し、朝の打合せ等の時間を短縮する。また、職員間の連絡にも積極的に活用する。	3.6	3.3	働き方改革推進	